

第四節 昭和二十四年

① 学事抜粋

昭和二十四年

二月 法隆寺写真展（陳列館）開催。

五月十四日 校内居住生徒は赤羽寄宿舎へ引越す。

同月三十一日 東京芸術大学設置される。

六月一日 国立大学設置法により本校は東京芸術大学東京美術学校と改称。

十月四日 東京芸術大学開学式挙行。

同月 ルネ・グロッセ来校。

十一月 梧竹展（陳列館）開催。

十二月一日 戦後第三回（東京芸術大学第一回）芸術祭開幕。

同月 戸張孤雁作品展（陳列館）開催。

② 職員その他（主に「辞令簿」による。）

昭和二十四年

三月三十一日 講師石沢正男は依願解嘱となる。

四月六日 上野直昭は文部事務官兼文部教官に任命され、国立博物館長兼東京美術学校長に補せられる。

同月三十日 教授脇本十九郎は文部技官に任命され、国立博物館次長に補せられる。

五月二十五日 藤田亮策は文部教官に任命され、本校教授に補せられる。

同月三十一日 上野直昭は東京芸術大学長事務取扱を命ぜられ、町田稲尾は同大学事務局長に任命される。

六月一日 伊藤廉、奥村土牛、兼子秀賢、寺内万治郎、後藤年彦、村田泥牛、羽石光志、中村登一、高田正二郎、川合清、田中芳郎、鈴木信一は本校講師兼東京芸術大学講師に補せられる。

同日 教務補佐員毛塚真一、渡辺洋、若林作司は文部事務官に任命され東京芸術大学勤務を命ぜられる。

同月十八日 上野直昭は東京芸術大学東京音楽学校長小宮豊隆辞任につき、同校長事務取扱兼任を命ぜられる。

同月三十日 藤田亮策は東京芸術大学教授に補せられる。小塚新一郎は文部教官に任命され、本校教授兼東京芸術大学教授（哲学および倫理学担任）に補せられる。

同日 石田英一、海野清、平柳田中、小林古径、安田鞆彦、安井曾太郎、梅原龍三郎、小場恒吉、松田権六、石井鶴三、広川松五郎、岡田捷五郎、西田正秋、内藤春治、吉田五十八、丸山不忘、吉川逸治、新規矩男、西本順は東京芸術大学教授兼任を命ぜられる。

同日 山本丘人、田中青坪、裕伊之助、菅原安男、久保守、吉村順三、寺田春弑、笹村草家人、山脇洋二、小池岩太郎、入谷昇、品田慎一、六角頼雄、前田泰次は東京芸術大学助教授兼任を命ぜられる。

七月一日 伊藤廉は東京芸術大学助教教授兼本校助教教授に任命される。

七月二十七日 上野直昭は東京芸術大学東京美術学校長および同東京音楽学校校長兼務を解かれる。村田良策は東京芸術大学美術学部長に任命され、本校校長および東京芸術大学美術学部附属工芸技術講習所長兼任を命ぜられる。

同月三十一日 谷信一、山本豊市、菊池一雄は本校講師兼東京芸術大学講師に任命される。

同日 熊本正男は文部事務官に任命され、東京芸術大学附属図書館事務長を命ぜられる。

八月一日 藤田亮策は東京芸術大学附属図書館長に補せられる。西本順は東京芸術大学厚生課長を命ぜられる。

同月三十一日 浅野陽は本校講師に任命される。文部事務官毛塚真一、渡辺洋、若林作司は本官を免ぜられ、文部教官に任命される（毛塚は東京芸術大学助手兼本校助手。渡辺、若林は本校助手兼東京芸術大学助手）。

十月一日 上野直昭は本官（国立博物館長）を免ぜられ、文部教官専任となり東京芸術大学学長に補せられる。

十一月五日 中村登一は依願免本官となる。

十二月二十日 山本学治は本校助教教授に任命される。

十二月三十一日 本校教授小塚新一郎は東京芸術大学教授に配置換えされる。

③ 本校最後の職員の顔触れ

氏名	担当学科	略歴
上野直昭	美術史	東京帝国大学大学院（心理学専攻）満期退学
和田英作	名誉教授	私立明治学院中途退、黒田清輝、久米桂一郎両氏の所設にかゝる天真道場にて洋画修業 東京美術学校卒業
結城貞松	同	東京美術学校日本画科卒業 同校西洋画科二年級にて事故により退学
石田英一	鍛金実習及制作法	東京美術学校鍛金科卒業
海野清	彫金実習 製作法	東京美術学校金工科卒業
平櫛倬太郎	木彫実習	大阪に於て中谷省古に就き木彫を学ぶ 東京に出て高村光雲に師事する
小林茂	日本画実習	東京に出て梶田半古に就きて日本画を学ぶ 歐洲を巡遊して泰西美術を研学帰朝す
安田新三郎	日本画実習	小堀軀音に就きて画事を学ぶ
石田 ^井 鶴三	塑造実習 木彫実習	東京美術学校彫刻科選科卒業
安井曾太郎	油画実習	浅井忠洋画塾に入門後関西美術院に学ぶ 渡仏、巴里、アカデミー・ジュリア